

鼎ナゾとき探偵団が始動 —中学生・一般参加 本館と図書館共催で—



6つのナゾときに挑戦

公民館長
小西盛登

ふるさと学習の一つとして今年度、新たに鼎図書館と共同企画した「鼎ナゾとき探偵団」が発足しました。募集に応じた鼎中学生7人と大人5人

が参加し、鼎中学校生徒徒から募集した「鼎のナゾ」の調査を開始しました。今回のナゾは、鼎の由来や学校の歴史など6項目あり、探偵団は二つのグループに分かれ、ナゾを分担し中学生が隊長となり、大人も一緒に調査を行います。鼎図書館

の関係図書で調査を行った上で、現地調査も行い、ナゾときをまとめ、秋には図書館や文化祭などで調査結果を公開する予定です。鼎の郷土資料を活用し、世代を超えて調査や交流を行う中から、それぞれの学びが深まることを期待しています。

えんじくたい

コロナの渦中であるが、オリンピックが開催されました。世界中がコロナに席卷されて2回目の夏。ワクチン接種も進んで高齢者に安ど感が広がっている一方で、変異型のコロナが猛威を振るっており、さらなる拡大が懸念されています。

自治会活動や公民館活動も中止や縮小・延期ばかりで、何一つ十分な活動（十分な活動が曲者である）ができていません。地域行事の在り方、やり方について大きな疑問符を投げかけたのが今回のコロナ騒動ではないでしょうか。「毎年やっているから同じようにやらまいか」などと考えて、行事や事業を考えてきましたが、一部役員の自己満足であつたりしなかったか。コロナは一回立ち止まって問い直す機会を私たちに与えてくれたと感謝しなければなりません。これからの少子高齢化の時代をふまえ、自治会及び公民館の役員数や事業の内容を大幅に整理するときかもしれません。コンパクトな自治会・公民館活動を皆で考え進めていく時代かもしれません。（二色区長 本島文男）

コロナと共に生きる

チェックリストを作成

県公民館長
小西盛登

コロナ禍での公民館事業の実施に当たり、感染予防策に関する「チェックリスト」を作成しました。内容は、実施する感染対策を整理したものです。感染警戒レベルによる市有施設の感染予防対策と連動した、県公民館の対応も整理しました。これらを活用して安心安全な事業実施を行います。

コロナ禍の取り組み

体育委員長
堀本喜正

体育委員会では、コロナ禍における体育事業の実施方法について、これまで様々な意見を出し協議を重ね、事業実施の目安となる基準作りをしました。今後もこれらの基準をさらにブラッシュアップさせ、安心安全な環境の中で皆さんとともに

健康増進して参りたいと思います。

役員研修会

分館長会長
宮澤賢二

6月20日(日)午前10時より、飯田保健所松岡所長の講演で『コロナと共に生きる』とのテーマで、二十世紀以前から今まで人類は何度もコロナウイルスと闘い対処してきたことを踏まえて、変異株への不安など教えていただき、まさに目からうろこでした。

大勢の方が聞ける機会があればと思いました。



夏祭り開催に向けて

名古熊分館主事
関島孝志

名古熊夏祭り「コロナに負けず区民ひとつに」のスローガンを掲げて、開催に向けて準備を進めてきました。

イベントでは東京オリンピックに絡めた競技を計画、屋台では調理済みの商品販売を計画して、飲食では特別スペースを設ける、マスク飲食等、感



コロナ禍での夏祭り

一色分館長
林 宗夫

まるで津波のように押し寄せるコロナ禍で公民館活動で最大のイベントである区民夏祭りの開催を悩みましたが区内各団体による企画委員会にて規模の縮小・感染防止対策を講じての開催を決定いたしました。

はじめに一色神社獅子舞保存会による子ども獅子舞及び傘踊りを披露していただき、射的・千本



染対策をしました。

7月末には準備が整い、ステージ作りも実施され、2年ぶり夏祭り開催まであと一歩というところで、コロナ感染拡大にて、夏祭りも残念ながら中止という判断に至りました。

つり・水ヨーヨー等の縁日を開催、最後に夏祭り恒例の大抽選会を行い盛況のなか終了いたしました。子どもたちにとって夏休みの思い出の一ページとなれば幸いです。

自慢のコミュニティ

東分館主事
米山和彦

コロナ禍であっても東鼎ならできると納涼祭の安易な提案に対し、予想外のご意見を頂戴し、どうすれば安心してご参加いただけるのか検討を重ね、何とか7月24日開催に至るも、3週間経過した現在、感染者が確認されていないことでやつと安堵の胸をなでおろすことができました。やらない方がどんなに楽か、簡単か。しかし、永い間

と夏の一ページに記憶されたことと思います。初の試みにつき、改善点の指摘を来年の肥やしとして、より良い企画で開催できるようお楽しみに。



楽しい思い出を

切石分館長
澤柳厚司

夏休み、すいか、プール、花火、そんな思い出の一コマにと切石子ども夏祭りは企画されました。コロナ対策にと自粛の風潮もある中でしたが、屋外会場の大袋グラウンドを選択し、検温にマスク、除菌消毒を施し決行。前半ゲーム、後半花火と、実行委員会手作りのイベントに子ども達の歓声が絶えることなく、きつ



成人式
苦渋の中止決定

令和2年度成人式
 実行委員長 塩澤直大

実行委員長として9月 尽力しました。

頃から準備をしていき、一度コロナの影響で延期になりましたが、やはりこの時に感じていた「この調子で成人式ができるのか？」という不安から皆のモチベーションが下がった中で準備は大変でした。

それでも夏にできると分かり、一生に一度の成人式を成功させるために

夏の開催により、服装や熱中症対策など例年とは違った配慮が必要となり、主事の吉川さん含めみう場もありました。ここまでがんばったのという気持ちもありますが、またコロナが収束しマスクなしで集まれるようになった時、



実行委員長として準備ができたと思います。



人形劇フェスタ 県地区公演

8月8日(5・6日)

文化委員長 佐々木 茂昭

本年の人形劇地区公演は、二転三転とコロナによって変更がありました。が、2年ぶりの地区公演、また、中学生の演劇の場、人形劇を楽しむに待っていてくれる人達に是非の思いで行えました。

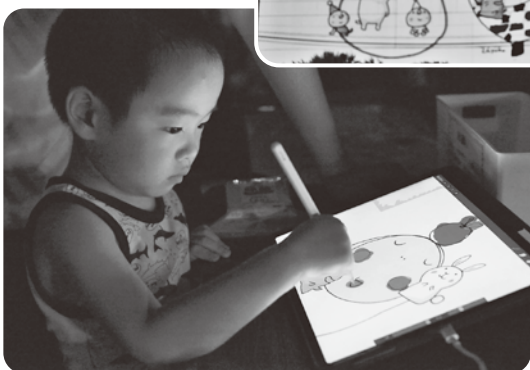
今回は本館中心で行い、主事提案でプロジェクトジョンマッピングも行いました。どちらにも多くの家族連れで楽しんでいただきました。来年は各地区で行えればと思います。



県中学校 人形劇部
 「のん」の上演



親子連れで入場 一 受付風景



タブレット端末で描き、
 文化センター壁面に投影



世代を越えて楽しく観賞

根気と本気、元気と勇氣

柄木田 孝行さん(88歳) 切石



今回の「かなえびと」は県公民館長を8年間も務められた大物登場です。柄木田先生は88歳、今年米寿を迎えられました。しかし、全く米寿を感じさせない若々しさに驚きです。

柄木田先生は埴科郡雨宮村(現千曲市)で生まれ、信大卒業後、浪合中学校を振り出しに飯田下伊那小中学校を中心に赴任され、丸山小で教頭、下條小・追手町小と校長を歴任されました。そして長年の教育功労が認められ、「瑞宝双光章」を受章されました。

教員を定年退職された柄木田先生は、退職後信じられない程の趣味三昧の生活を始められました。短歌、落語、

マレットゴルフと多彩な趣味を持たれ、その趣味は半端ないもので、短歌は、長野県退職校長会報に「米寿老人の送る応援歌」と題して掲載され、落語は紫綬褒章を受章した落語家立川志の輔さんともお友達になるほどの腕前なのです。そして、マレットゴルフは趣味だけでなく、健康長寿のための究極のスポーツと位置づけ生き甲斐として情熱を燃やし励んでおられます。そして、写真のようにいくつものマレットゴルフ大会で優勝をされているのです。

そして、先生が生き甲斐としているものがもう一つあります。この趣味を活かした講演会です。長野県老人クラブ大会が飯田市で開催された時、講演したのをきっかけに、長野県内各地の老人クラブ大会において講演をされています。

(取材 佐々木邦雄)

かなえびと No.44

編集後記

新型コロナウイルスが猛威を振るい、日本は猛暑のさなかですが、世界中のアスリートが集い東京オリンピック・パラリンピックが開催されました。選手が発する「楽しさ」、「感謝」の言葉にテレビ機軸で共感をした毎日でした。

ぼくは、下茶屋の茶屋町太鼓鼎という団体で妹二人、三兄妹で太鼓をやっています。下茶屋の太鼓えんそうを見てカッコイイなと思えばくもやり始めました。始めのころは、ぜんぜんたたき方が分からずなにもたたけな



太鼓は楽しい

下茶屋 金本 一 希くん(6年生)

約2年間、私たちの地域活動や伝統芸能活動が極小サイズのウイルス菌によって停滞した代償は大きいです。しかし自粛しつつも「人類」と「ウイルス」との共存は必然で、正しい予防と治療薬があれば極端に恐れる必要はないことを学びました。リポーン・公民館活動。(K・S)

今はコロナで見てもらうきかかないけど、また見てもらう時はカッコよくたたきたいです。

かっただけど、練習をやっているうちに、少しずつたたけるようになってきて、どんどん太鼓をたいて曲を覚えるのが好きになりました。しめ太鼓や、中太鼓などたたける太鼓の種類がふえたので、もっと練習してもっと上手にたたけるようになりたいです。



No.118